

平成28年度 山村活性化支援交付金の評価シート

1. 評価者氏名	平井正尚			
2. 事業実施主体名	魚沼市	事業開始年度	目標年度	事業実施期間
3. 事業費(うち国費)	7,928,718円(7,711,972円)	平成28年度	平成30年度	平成28年5月25日～平成29年3月31日
4. 取組振興山村名	旧入広瀬村			
5. 事業評価				
① 総合評価	○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (②から⑤までを踏まえた総合的な評価)		○ 山村活性化支援交付金事業実施計画の目標は達成できているか。	
	評価 (該当に○) (A) 優良 (B) 良好 (C) 低調		評価 (該当に○) (A) 優良 (B) 良好 (C) 低調	
② 取組状況	(評価理由及び助言等のコメント) ・②～④の評価項目でB評価が4項目である。 大白川集落は元々ぜんまい採りや炭焼き、農業で生計を立ててきた歴史・文化があり、秋のきのこ取りやウサギやクマの狩猟なども含め、山と暮らしが一体であった。市内でもその食を始め最も山に対する依存度と知識を併せ持った地域と言える。そういった地域性をもった所に産官学連携で集落に入り、ワークショップを行いながら、豊富なブナ資源の活用や、人口減少の現状を把握した今後の事業の具体的展開を提示したことは森林資源の利活用や地域の活性化対策にもつながるものと思う。 また、森林資源の利活用により森林の荒廃防止はじめ、山菜・きのこなどの生育促進に繋がり、地域全体の魅力向上に繋がると思う。		③ 事業実績	
	(評価理由及び助言等のコメント)※各取組の達成率も明示した計算式を記入 ・試作品製作までの取組であり、販売実績や新規雇用者の目標値、実績値ともないことから達成率の評価はできないが、産官学のうち、地域資源を熟知している新潟大学と市役所農林課との連携は取れていると評価できる。 集落の中に入り、ワークショップ等の意見交換、話し合いを持って事業を進めていく手法は大事であり、今後も地元の意見を尊重しながら理解を深めていくことが肝要と思う。			
④ 実施体制	○ 目標の達成のためどのような活動が行われたか。		○ 活動組織は、山村活性化支援交付金事業実施計画の目標は達成できているか。	
	評価 (該当に○) (A) 優良 (B) 良好 (C) 低調		評価 (該当に○) (A) 優良 (B) 良好 (C) 低調	
⑤ その他	(評価理由及び助言等のコメント) ・事業計画に基づいて概ね計画どおり実施されている。 ・衛星写真を利用し、当該地域内2か所でブナ林の毎木調査を行い、資源評価と供給量(材積量)を行っているが、かなり綿密なものになっており、評価できる。また、専門家による提案を参考に地域の森林資源を活用した試作品の製作も予定どおり実施しており、その調査結果や試作品について地元集落で説明報告会を行い、理解を求めるとともに、今後の可能性と課題提起を示しているのが良かったと考える。		(評価理由及び助言等のコメント) ・事業実施体制が概ね整備され、事業が進められている。 ・しかし、今後は更なるマーケティング調査や、集落内の住民、生産森林組合、民宿などの観光関係者等々と一体感を醸成しながら、新潟大学からの指導や助言を取り入れ、官民協働で事業を展開していくべきと思う。	

※評価者(学識経験者等第三者)が複数いる場合には、評価者間で調整した評価結果を記載すること。